

上海研修

猛暑の日本を脱出し空路上海へ、着いてみれば日本以上の猛暑が待ち受けていました。初めての中国上海、第一印象は高層ビルが立ち並び、交通量も思ったより多く近代的な都市だなと感じられました。

しかし、高速道路を走っているトラックを見ればフロントガラスにひびが入ったまま走っていたり、日本では考えられないほど、荷物を高く積んで走っていたりで、まず、成長最優先という国の姿勢が感じ受けられました。

さて、一行はバスで上海郊外の『維拉紙管有限公司』の工場に到着すると 副党經理の陳武氏と楊進氏の2名に出迎えていただきました。

生産しているサンプルを見せてもらいながら中国国内の紙の相場や賃金、リーマンショックの影響等々質疑応答し

その後、工場見学へ、広大な敷地と建屋に驚きながら中へ入ると異常な暑さにさらに驚き見学していると、まず、人数が多い事に気が付きます。ラングストーン 1 台に5～6人貼りつき、マンドレル替えなども滑車等を使わず全て人の手で行っており、20年くらい前の紙管メーカーという印象が強かった。

使っている機械は全て中国製という事でしたが、ラングストーンをはじめカット機、工作機なども最新ではないが日本とほとんど変わらない精度のよいものが設備されていたように思われます。

感想として、思いのほか進歩しているなと思う反面、旧態以前とした面もあり、まだまだ進歩する伸び代が多く感じられました。

最後になりましたが、初めての中国訪問で右も左も分からぬ私めに色々とお世話いただきました皆様に感謝申し上げます。また、次回機会がありましたらよろしくお願い申し上げます。

